

6. 問題点・課題の整理

これまでに整理した本市の現状及び上位関連計画で目指す将来像などから、本市の問題点・課題について整理する。

現況まとめ

① 人口	<ul style="list-style-type: none"> ● 少子高齢化が進んでおり、将来人口は減少傾向で、高齢者割合は増加予測 ● 南部地域や東部地域の人口は減少傾向 	
② 主要施設	<ul style="list-style-type: none"> ● 海南病院や偕行会リハビリテーション病院のほか、近鉄弥富駅付近から佐古木駅付近までの一般国道1号の南側に診療所など個人病院が多く立地 ● 小学校、中学校のほか、2つの高校が立地 ● 商業施設は市中心部に多くが立地し南部地域や東部地域には非常に少ない ● 温浴設備のある福祉施設として、総合福祉センター、いこいの里、十四山総合福祉センターが立地 ● 市役所のほか、南部地域に鍋田支所、東部地域に十四山支所が立地 	
③ 移動状況	<ul style="list-style-type: none"> ● 市内移動は弥富駅や市役所が立地する中心ゾーン関連の移動が多く、移動手段の多くが自動車 ● 市内移動は「自由」目的、市外との移動では「出勤」目的が多い ● 外出率は年齢が上がるほど低下し、免許のない方の外出率が特に低い ● 名古屋市との移動で鉄道が多いが、その他の都市には自動車が多い 	
④ 公共交通網	<ul style="list-style-type: none"> ● 鉄道が3路線で4つの駅が立地し、路線バスが2路線、きんちゃんバスが3路線運行 ● 市内や市周辺部で愛西市巡回バス、飛島公共交通バス、木曾岬町自主運行バスが運行 ● 人口カバー率は86%、65歳以上は74%で、東部地域や南部地域でカバーされていないエリアが多い ● 隣接自治体が運行するコミュニティバスでカバーされているエリアもある 	
⑤ 鉄道	<ul style="list-style-type: none"> ● 運行本数は近鉄弥富駅が最も多く、利用者も多い ● JR・名鉄弥富駅を利用する場合は近鉄弥富駅南口バス停から駅舎内を通り抜ける必要がある ● JR・名鉄弥富駅では自由通路・橋上駅舎化事業にあわせた北口駅前広場の整備検討が進められている 	
⑥ 路線バス	<ul style="list-style-type: none"> ● 比較的長距離路線が運行し、運行本数は1日に1～2便と非常に少ない 	
きんちゃんバス	⑦ 利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ● 運行に使用しているマイクロバスの老朽化が進みバリアフリーへも未対応 ● 1便当たり乗車人員は北部ルート、東部ルートは増加傾向で、南部ルートは伸び悩み ● 市内87箇所のバス停のうち、「イオンタウン」「海南病院」「近鉄弥富駅南口」「総合福祉センター」「弥富市役所」の利用が多く、年間乗車人員が100人に満たないバス停も複数ある ● 午前中から午後の早い時間帯の便の利用が多く、夕方の便の利用者が少ない ● 近鉄弥富駅南口から川崎重工への利用も多い
	⑧ 収支	<ul style="list-style-type: none"> ● 令和元年度の運行経費は平成26年度から減少し、収入は増加、収支率も5.3%と改善 ● 利用者1人当たりの運行経費は令和元年度で1,109円となっており、平成26年度から288円減少
	⑨ 周知・利用促進策	<ul style="list-style-type: none"> ● 無料パスカードの配布やシルバーパスなど高齢者の料金負担の軽減のほか、サイクル&バスライド駐輪場の設置、多様な媒体を活用した情報提供、講演会の開催など周知・利用促進策を展開 ● 一方で、サイクル&バスライド駐輪場や飛島公共交通バス蟹江線の乗り継ぎに関する認知度が低い ● 平成23年度から無料お試し乗車券の配布を継続的に実施し、毎年80人程度の新規利用者を獲得
	⑩ 乗り継ぎ	<ul style="list-style-type: none"> ● きんちゃんバス相互の乗り継ぎ利用は見られるが、飛島公共交通バスなど他自治体が運行するバスとの乗り継ぎ利用は少ない ● 飛島公共交通バス蟹江線とはダイヤ調整を図っているが、木曾岬町自主運行バスとは調整していない。また、近鉄弥富駅における木曾岬町自主運行バスとの乗り継ぎには駅舎内を通り抜ける必要がある
	⑪ 利用評価	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用者の約8割は高齢者で、利用目的は「買い物」「通院」「公共施設への用事・利用」が多い ● 満足度は48.9%と低下傾向
⑫ タクシー	<ul style="list-style-type: none"> ● 愛知県の輸送実績は、車両数や実働率、実車kmなど、すべての項目で減少傾向 ● 障がい者や高齢者など移動に制約のある方を対象に福祉タクシー料金助成事業を実施しているが、扶助額は増加傾向となっているが、買い物など日常生活を支えるには不十分 	
⑬ 住民意向	<ul style="list-style-type: none"> ● 外出の際は車が多く、きんちゃんバスを利用しない理由も「自分で車やバイクを運転できる」が多い ● バスで行きたい施設は「市役所」「イオンタウン弥富」「海南病院」「近鉄弥富駅」が多い ● 主なターゲットは、地域によって多少異なるものの、鉄道は「通学」「通勤」「買い物」「観光」、きんちゃんバスは「通学」「通院」「買い物」「総合福祉センター・十四山総合福祉センター」「市役所・支所」、タクシーは「通院」が多い ● 運行本数の少なさや乗車時間の長さに対する意見が多い ● きんちゃんバスの幹線化や乗合タクシーの導入によるきんちゃんバスとの連携など各地域で提案あり 	
⑭ 上位・関連計画	<ul style="list-style-type: none"> ● まちの将来像：地域でつくる「人・自然・文化」の調和 輝く未来へ繋ぐまち・弥富 ● 立地適正化計画を策定し、コンパクト・プラス・ネットワークに向けたまちづくりを推進 ● 現行の地域公共交通網形成計画の目標は、1便当たり平均乗車人員は北部ルートで未達成であるが増加傾向を維持しており、利用者満足度は前年までは50%以上を確保していたが未達成 	

A：高齢者も使いやすい生活交通サービスの確保・維持を図ることが必要

【現況①③④⑨⑪】

- 今後の高齢化社会の進展や運転免許返納者の増加に対応するため、高齢者が安心安全に移動でき、気軽に外出できるような環境を形成するため、高齢者も使いやすい生活交通サービスの確保・維持を図ることが必要

B：公共交通空白地や人口減少に対応した生活交通サービスの確保・維持を図ることが必要

【現況①③④⑧】

- 定住者を確保し人口の減少を穏やかにするため、利便性の高い生活交通サービスの確保・維持を図ることが必要
- 人口が減少しても持続可能な公共交通網の形成が必要
- バス停から離れている公共交通空白地などに住んでいる方々に対しても持続可能で効率的な生活交通サービスの提供が必要

C：公共交通相互の乗り継ぎなど連携強化が必要

【現況②③④⑤⑥⑦⑩⑫】

- 鉄道やバスなど市内を運行する公共交通を活かし、より利便性の高い地域公共交通網とするため、ダイヤや料金、待ち合い環境、ICT化の推進などにより各公共交通相互の乗り継ぎの環境の向上を図るなど、相互の連携のより一層の強化を図ることが必要
- 飛島公共交通バスや木曾岬町自主運行バスでカバーされている地域も存在することから、それら公共交通を活かし、乗り継ぎについても周辺自治体と連携することで、より利便性の高い地域公共交通網の形成が必要

D：地域の実情や需要に応じた、効果的な公共交通体系への再構築が必要

【現況①②③④⑤⑥⑦⑩⑪⑫⑬】

- 利用の少ない地域への予約制運行の導入や、移動に必要な時間が長い地域への特急便の導入など、地域にあった運行形態の選択による持続可能な運行方法の確立や公共交通網の再編などにより、地域の実情や需要等に応じた効果的な地域公共交通体系への再構築が必要
- タクシー車両の有効活用や、更新時期にあわせたバリアフリー化された適切な大きさの車両の導入など、利用実態に即した適切な大きさの車両の導入など、より効率的な運行の検討が必要

E：コンパクト・プラス・ネットワークの都市構造などまちの将来像実現を支えるための公共交通網の形成が必要

【現況①②③④⑬⑭】

- コンパクト・プラス・ネットワークの都市構造などまちの将来像実現を支えるために、まちづくりと連携した地域公共交通網の形成を図るとともに、地域の特性や都市機能に応じた適切な公共交通の運行方法やサービスの提供が必要

F：継続的な利用促進策の展開と情報を入手しやすい環境の形成が必要

【現況①④⑤⑦⑪】

- 現在展開している利用促進策等の取組みの継続的な実施と周知のほか、公共交通の果たす役割や重要性についても啓発することが必要
- 鉄道や公共施設、商業施設、病院、観光施設などと連携したターゲットに応じた利用促進策の展開や、多様な媒体による情報を入手しやすい環境の形成を図ることが必要

G：地域で守り育てる環境の構築と意識の醸成が必要

【現況①⑧⑬⑭】

- 持続性のある生活交通サービスの確保・維持に重要となる地域住民の利用促進やサポートの推進、商業施設や病院、企業による協力が必要
- 地域の集まりの場や協議会を活かした、存続に対する危機感等を共有する場の創出が必要

H：福祉施策との連携が必要

【現況①②③⑫⑬】

- 今後の高齢化社会の進展や運転免許返納者の増加が予想されている中、鉄道やバスなど既存の公共交通手段だけではすべての移動に対応することは困難である。また、福祉タクシー料金助成事業ではカバーできていない需要もあることから、福祉施策と連携した対応が必要